

◎ 指示があるまで開かないこと。

(令和3年2月11日 13時55分～15時15分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。  
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
		↓		
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101		101
①		①
②		②
③	→	③
④		●

(例 2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓					②	②	
102	①	②	●	④	⑤			③	→	●
								④	④	
								⑤	⑤	

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓					②	②	
103	●	②	③	④	●			③	→	③
								④	④	
								⑤	●	

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	●	
104	②	●	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

①	②
104	
0	●
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
●	9







- 1 中高年女性の脂質異常症で適切なのはどれか。
  1. 総コレステロール値で診断される。
  2. 加齢に伴う耐糖能の上昇が原因である。
  3. 閉経前は生活習慣改善による非薬物療法が中心である。
  4. LDL コレステロール値の上昇が改善目標とされている。
  
- 2 胎児性アルコール症候群の児に生じる典型的な異常はどれか。
  1. 肢欠損
  2. 小頭症
  3. 眼間開離
  4. 脳室周囲白質軟化症
  
- 3 子宮の構造で正しいのはどれか。
  1. 子宮筋層は横紋筋からなる。
  2. 子宮頸部では弾性線維が乏しい。
  3. 生理的収縮輪は洞筋部に形成される。
  4. 子宮峡部は解剖学的内子宮口と組織学的内子宮口の間である。
  
- 4 性器ヘルペスについて正しいのはどれか。
  1. 再発例は初感染よりも重症化する。
  2. 妊娠中の抗ウイルス薬治療は避ける。
  3. 分娩時に外陰部に水疱がある場合は帝王切開を行う。
  4. 性器ヘルペスを合併した妊婦から出生した児は出生後にワクチンを投与する。

- 5 産婆の免状制を初めて規定したのはどれか。
1. 医 制
  2. 産婆規則
  3. 太政官布告
  4. 産婆名簿登録規則
- 6 臓器移植では拒絶反応の主要な要因となる分子であり、妊娠では絨毛細胞における特殊な発現様式が胎児に対する母体の免疫学的受容に深くかかわっているのはどれか。
1. エストロゲン受容体
  2. プロゲステロン受容体
  3. ヒト白血球抗原〈HLA〉
  4. ヒト絨毛性ゴナドトロピン
- 7 抗 RhD 抗体陰性の妊婦に対して抗 D 免疫グロブリンを投与すべき時期はどれか。
1. 陣痛発来時点
  2. 羊水穿刺の直後
  3. 正期産の産褥 5 日
  4. 妊娠 5 週での自然流産直後
- 8 在胎 22 週の胎児の状態はどれか。
1. 音に対する明らかな反応がある。
  2. 全身に胎脂の付着を認める。
  3. 覚醒期が認められる。
  4. 呼吸様運動を認める。

9 出生直後の新生児の哺乳前行動で適切なのはどれか。

1. 自分の手を吸啜する。
2. 生後2時間以降に認める。
3. 覚醒レベルの State 6 で認める。
4. 分娩中の麻酔薬による影響は少ない。

10 助産師は、中学1年生の女子生徒30名を対象とした45分間の健康教育の依頼を受けた。養護教諭と担任教諭との事前打ち合わせで、中学1年生で月経が発来した生徒が約半数であること、月経前にイライラ感、頭痛などを訴える生徒が多いことがわかった。

今回の健康教育を行う内容で、優先度が高いのはどれか。

1. 月経時の手当の仕方
2. 月経前症候群の症状
3. 基礎体温の測定
4. 性感染症

11 産婦の状態と、産婦に勧める体位の組合せで適切なのはどれか。

1. 前回分娩所要時間が3時間の既往 ————— 座位
2. 第1期潜伏期に疲労が強い ————— 側臥位
3. 第1期活動期に強い腰痛の訴えがある ————— 仰臥位
4. 児娩出直後に胎盤剝離出血がみられる ————— 四つん這い

12 Aさん(35歳、初産婦)。3,300gの児を正常分娩した。分娩所要時間は15時間30分で出血量は350mL。会陰裂傷はⅡ度で縫合術施行。分娩後1時間経過した時点で「縫ったところが、急にととても痛くなってきた。膣の奥も圧迫されてる感じがする」と訴えがあった。体温37.5℃、脈拍84/分、血圧122/66mmHg。出血量は35mL、子宮底は臍高で硬度は良好だった。

このときの助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. トイレで排尿を促す。
2. 会陰および膣部を診察する。
3. 鎮痛薬の処方を医師に依頼する。
4. 1時間後に出血量を確認すると説明する。

13 早産期の前期破水について正しいのはどれか。

1. 発症後分娩まで1週間以上かかることが多い。
2. 診断後に頸管縫縮術を行う。
3. 抗菌薬の投与を行う。
4. 初産婦に多い。

14 Aさん(31歳、初産婦)。妊娠30週3日で下腹部痛を訴え、かかりつけ医を受診し、子宮口2cm開大、切迫早産のため周産期医療センターに搬送された。搬送後、分娩が進行し経膣分娩となった。Aさんは、助産師がバースレビューを実施した際に「早く産まれたのでNICUに入院して一緒にいられない。おっぱいは張ってきたけど飲ませてあげられない」と話した。

助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「無事に出産できたことを受け入れましょう」
2. 「早産になってしまった原因について考えましょう」
3. 「直接授乳できなくても搾乳した母乳はあげられます」
4. 「お母さんは先に退院できるので、その間に体調を整えましょう」

15 妊産婦のための食事バランスガイドにおいて、母乳栄養を行っている褥婦の主食の1日付加量として適切なのはどれか。

1. うどん1杯分
2. おにぎり1個分
3. もりそば1杯分
4. ロールパン1個分

16 生後10か月の男児。これまで乳児健康診査や予防接種は遅滞なく受けている。

7か月児健康診査では特に問題は指摘されていない。

10か月児健康診査で社会性発達を評価する項目として適切なのはどれか。

1. 身ぶりをまねする。
2. あやすと声を出して笑う。
3. 鏡に映った自分の顔に反応する。
4. おむつをはかせるとき両足を広げる。

17 家庭内で幼児が誤飲した。児の全身状態は良好で、嘔気はみられない。

受診前の初期対応として催吐が禁忌になるのはどれか。

1. 灯油
2. たばこ
3. 向精神薬
4. アルコール飲料

18 周産期医療体制整備における地域周産期母子医療センターについて正しいのはどれか。

1. 周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設である。
2. 平成30年(2018年)には全国で500施設が設置されている。
3. 総合周産期母子医療センターと同数が整備される。
4. 三次医療圏の範囲を基準に設置が検討される。

19 産科病棟で、正常新生児用のクリニカルパスを導入した。期待できる効果はどれか。

1. 個別性のある授乳指導ができる。
2. 新生児の取り違えが防止できる。
3. 児に関する情報を母親と共有できる。
4. 先天性甲状腺機能低下症が早期発見できる。

20 日本において婚姻届が受理される状況はどれか。

1. 夫婦別姓
2. 証人が未成年
3. 三親等内の傍系血族間の結婚
4. 妊娠していない女性が離婚日の翌日に届出

21 Aさん(28歳、初産婦)。妊娠16週0日。分娩予約の目的で病院を1人で受診した。外来受診時に助産師は、Aさんの顔面の出血斑に気づき、ドメスティックバイオレンス(DV)を疑った。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 顔面の出血斑の原因を聞く。
2. ソーシャルワーカーを紹介する。
3. 配偶者暴力相談支援センターに連絡する。
4. 次回の妊婦健康診査時にDVスクリーニングを行う。

22 助産所について正しいのはどれか。

1. 開設した場合は所在地の市区町村長に届け出る。
2. 分娩を扱わない助産所でも産後ケアを行える。
3. 開設者は助産師でなければならない。
4. 入所者数の上限は12名である。

23 大規模災害が発生した。病院は停電・断水となった。建物の倒壊はない。入院中の褥婦に退院先の状況を確認したところ、全員から、停電・断水中だが居住可能な場所に退院する、との返答があった。

明日退院予定で混合栄養を行う褥婦に説明する内容で適切なのはどれか。

1. 児は退院まで新生児室で預かる。
2. 哺乳瓶の代わりに紙コップも使用できる。
3. 母乳分泌量に関わらず母乳栄養は中止する。
4. 調乳にはミネラルウォーター(硬水)を使用する。

24 出生前に行われる遺伝学的検査について正しいのはどれか。

1. 検査後に遺伝カウンセリングを開始する。
2. マスクリーニングとして実施される。
3. 確定的検査と非確定的検査がある。
4. 妊娠 22 週以降には実施しない。

25 分娩誘発・促進の方法で正しいのはどれか。

1. メトロイリントルの挿入後、子宮収縮薬を併用する時は 30 分あける。
2. プロスタグランジン  $F_{2\alpha}$  は気管支喘息の合併妊婦には使用できない。
3. 吸湿性頸管拡張材は子宮収縮薬投与中であっても使用できる。
4. プロスタグランジン  $E_2$  錠は 30 分後に 1 錠追加できる。
5. オキシトシンの開始時投与量は 5 ~15 m IU/分である。

26 切迫早産で入院中の妊婦。持続点滴静脈内注射で硫酸マグネシウムの投与が行われている。

高マグネシウム血症のリスクが高まる状態はどれか。

1. 肥 満
2. 不 眠
3. 便 秘
4. 尿量減少
5. 羊水過少

27 正常な妊娠経過の経産婦に認められる所見と妊娠週数の組合せで正しいのはどれか。

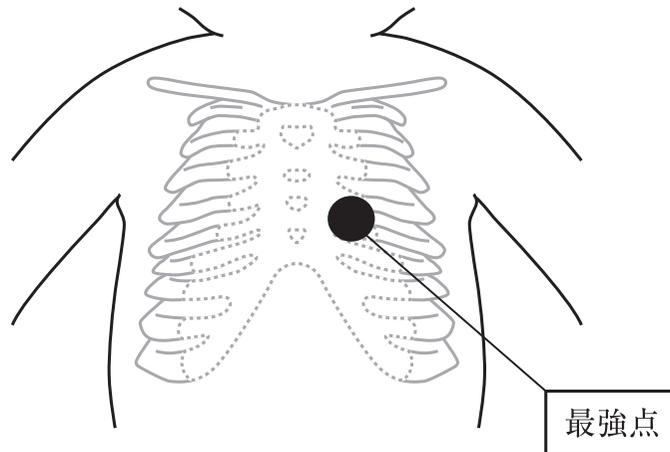
1. Piskacek〈ピスカチェック〉徴候 ————— 妊娠 16 週ころ
2. 胎動初覚 ————— 妊娠 18 週ころ
3. 前駆陣痛 ————— 妊娠 24 週ころ
4. 組織学的内子宮口開大 ————— 妊娠 28 週ころ
5. 産 徴 ————— 妊娠 34 週ころ

28 40 歳の初産婦。妊娠経過は順調であったが、妊娠 38 週の妊婦健康診査で血圧が 140/95 mmHg となり、分娩誘発が行われて順調に経膈分娩した。産褥 1 日目に突然「胃のあたりが痛い」と訴え、苦悶様表情を浮かべている。意識は清明で血圧 170/110 mmHg、脈拍 100/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉98 % (room air) である。

直ちに行うべき検査はどれか。

1. 上部消化管内視鏡検査
2. 胸部エックス線撮影
3. 肝機能の血液検査
4. 血液ガス分析
5. 脳波検査

29 日齢5の正期産新生児。哺乳は良好だが、胸部聴診で収縮期心雑音を聴取した。聴取した心雑音の最強点を図に示す。バイタルサインは、体温 37.2℃、呼吸数 80/分、心拍数 150/分(整)、血圧 65/40 mmHg、下肢の経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉99%(room air)であった。



心雑音の原因として最も考えられるのはどれか。

1. 機能性心雑音
2. 重症肺動脈狭窄症
3. 心室中隔欠損症
4. 総肺静脈還流異常症
5. 動脈管開存症

30 Aさん(31歳、既婚)。妊娠歴なし。会社の子宮頸がん検診で細胞診異常の指摘を受けた。その後、挙児希望があり、婦人科外来を受診した。子宮頸部組織検査で軽度異形成(CIN1)、ヒトパピローマウイルス〈HPV〉核酸検査で16型陽性であった。

助産師の説明で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 「出産後には自然治癒します」
2. 「定期的に産婦人科に通院しましょう」
3. 「妊娠のためには人工授精が必要です」
4. 「頸部病変の悪化がなければ妊娠することができます」
5. 「すぐに子宮頸癌のワクチンの接種を受けてください」

31 妊娠末期の妊婦への Leopold〈レオポルド〉触診法で骨盤位と疑われるのはどれか。2つ選べ。

1. 第1段で凹凸のない硬い球形の塊に触れる。
2. 第2段で母体側方に均等な板状の抵抗が触れる。
3. 第3段で球形の塊が触れる。
4. 第3段で最も大きな部分に触れる。
5. 第4段は第2段で触れた部分に続く凹凸のある部分に触れる。

32 胎児の well-being の評価で異常と判断される所見はどれか。2つ選べ。

1. 羊水ポケット 4 cm
2. 30分間で胎動1回
3. 胎児心拍数基線 140 bpm
4. 拡張期の臍帯動脈血流の逆流
5. 15 bpm 以上かつ 15 秒以上の一過性頻脈が 30 分間に 3 回

33 重症妊娠悪阻の妊婦の注意すべき主な合併症はどれか。2つ選べ。

1. 悪性高熱症
2. 高蛋白血症
3. 静脈血栓塞栓症
4. 高ナトリウム血症
5. Wernicke(ウェルニッケ)脳症

34 サイトメガロウイルス感染症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 母体感染では不顕性感染が多い。
2. 胎内感染により児に難聴が生じる。
3. 母子感染予防のために帝王切開が有効である。
4. 生殖年齢女性の抗体保有率が近年上昇している。
5. 妊娠中の初感染時に胎児感染に至る可能性は1%以下である。

35 産後うつ病の特徴はどれか。2つ選べ。

1. 希死念慮を抱く。
2. 児との愛着形成に影響する。
3. 産後早期に幻覚が出現する。
4. 産後2週ころまでに消失する。
5. 症状の本質は予期せぬ気分の変化である。

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

Aさん(36歳、会社員)。妊娠歴なし。夫(40歳、会社員)と2年前に結婚した。結婚後なかなか妊娠しないため、不妊専門クリニックを初回受診した。Aさんの月経周期は30日型で規則的、持続期間6～7日である。半年ほど前から月経時の下腹部痛が強くなっているのを自覚している。次の月経は1週後の予定であるという。夫婦ともに既往歴と家族歴に特記すべきことはない。

36 初回受診時に行う検査で適切なのはどれか。

1. Huhner〈フーナー〉試験
2. 経膈超音波検査
3. 抗精子抗体検査
4. 卵管通色素検査
5. Aさんの染色体検査

37 初回受診後に、まず不妊原因についてのAさんのスクリーニング検査が開始された。その結果、血清クラミジア抗体検査が陽性であった。クラミジアの治療を行ったことはないという。子宮頸管分泌物の核酸増幅法検査では陰性である。抗菌薬の内服治療後に実施した子宮卵管造影検査の結果、左右卵管の通過性には問題がなかった。

クリニックの助産師のAさんへの説明で正しいのはどれか。

1. 「クラミジアの検査結果は夫に話す必要はありません」
2. 「クラミジア感染が不妊の原因です」
3. 「妊娠しても流産しやすい状態です」
4. 「治療しても抗体は陽性のままです」

38 その後、夫の精液検査が行われて、重度の乏精子症であることが確認された。夫婦で夫の検査結果の説明を受けた後、2人ともできるだけ早く効果が期待できる治療に臨みたいと希望している。

今後の不妊治療で優先されるのはどれか。

1. 漢方療法
2. タイミング法
3. 顕微授精〈ICSI〉-胚移植
4. 提供精子を用いた人工授精

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

A さん(36 歳、初産婦)。祖父と母親が 2 型糖尿病の治療を受けている。自然妊娠して妊娠初期に、妊娠中の明らかな糖尿病〈overt diabetes in pregnancy〉の診断を受けた。妊娠中は、自己血糖測定の数値に応じてインスリン自己注射を行い、食事は 6 回の分割食で血糖コントロールは良好であった。3,400 g の児を正常分娩にて出産し母児同室中である。

39 産褥 2 日。血糖値は朝食前 85 mg/dL で予定通りの量のインスリンを自己注射してから朝食を摂取した。朝食後 2 時間、助産師が訪室すると A さんは授乳中であつたが、気分不快を訴えて冷汗が認められた。授乳を一時中断して、自己血糖測定器で血糖値を測定したところ 70 mg/dL であつた。

このときの A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 授乳を再開して様子を見る。
2. 追加のインスリン投与の準備をする。
3. 仰臥位で両下肢を挙上した体位とする。
4. ブドウ糖含有の飴をなめるように促す。

40 産褥 6 日。インスリン量の調整が行われて、A さんの血糖値も適切なコントロールとなった。母乳分泌は良好で、授乳は母乳のみで行い、児の体重は 3,450 g である。1 日の摂取エネルギーは 1,800 kcal で 3 分食とし、食事直前にインスリンの自己注射を継続することとなった。

退院指導の内容で適切なのはどれか。

1. 「母乳分泌量が増えたら、食事カロリー量を再度検討しましょう」
2. 「授乳は 30 分程度で切り上げて血糖値の変動を抑えましょう」
3. 「母乳育児をすると、糖尿病が悪化しやすくなります」
4. 「授乳前には軽い間食を摂るといいですよ」

41 出産後 6 か月、糖尿病の定期検査のため来院した。血糖コントロールは良好である。A さんは「退院後は自分の糖尿病の治療と初めての育児で毎日が大変でした。でも、最近は自分なりの育児ができるようになり、自信がついてきました。近い将来、もう 1 人子どもが欲しいです」と言う。

A さんへの説明として適切なのはどれか。

1. 「次回の妊娠に向けて、引き続き血糖をコントロールしていきましょう」
2. 「糖尿病が治ってから妊娠をするようにしましょう」
3. 「月経が再開したらインスリンは終了できます」
4. 「お子さんは糖尿病になる心配はないでしょう」

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

Aさん(21歳、初産婦、未婚)。高校卒業後、友人を頼りに上京したが、定職がなく不定期のアルバイトで収入を得て生活をしている。元来、月経周期が不規則であり、最近では長期間無月経であったが気にせず過ごしていた。3日ほど前から下腹部に時々痛みを感じ、腫れた感じがするため、産婦人科医院を受診した。

診察前の尿検査で妊娠反応陽性、超音波検査で子宮内に胎児が確認され、児頭大横径 55 mm。子宮底長 20 cm、腹囲 66 cm。最終月経の開始日は 6 か月前である。現在交際中のパートナーはなく、3 か月前までは複数の男性との交際歴があり胎児の父親は不明であるという。

42 妊娠週数の正確な推定のために最も有用な情報はどれか。

1. 腹 囲
2. 子宮底長
3. 児頭大横径
4. 最終月経の開始日
5. 尿中ヒト絨毛性ゴナドトロピン値

43 Aさんは、初診時には妊娠に困惑した様子で「お金もないし、相手も分からないので育てる自信がない。両親にも伝えていない」と話した。助産師はAさんにまず両親に連絡を取ることを勧めた。2回目の受診時、Aさんは「お父さんもお母さんも怒っていたけど、生まれたら実家で一緒に育てようと言ってくれた。産みたいと思う」と明るい表情で話した。Aさんは助産師と相談の上、現在の産婦人科医院で分娩してから、児とともに退院後すぐに実家に帰って生活することを予定した。

助産師がAさんのサポートのために分娩前から連絡をとる関係機関で適切なのはどれか。

1. 保育所
2. 警察署
3. 児童相談所
4. ハローワーク
5. 市町村保健センター

44 その後、Aさんは定期的に妊婦健康診査を受診し、経過は順調であった。妊娠31週頃より左鼠径部に限局して痛みが強い水疱を伴う複数の皮疹が出現した。妊娠32週に血清抗体検査が行われ、検査結果では単純ヘルペス抗体検査はIgGとIgMいずれも陰性、水痘・帯状疱疹ウイルス抗体IgG陽性、IgM陰性であった。妊娠34週に受診の際には皮疹は痂皮化していた。

この時点で助産師のAさんへの説明で正しいのはどれか。

1. 「母乳での育児はできません」
2. 「痛みが残ることはありません」
3. 「胎児への感染の心配はありません」
4. 「分娩後はワクチンを接種しましょう」
5. 「原因ウイルスの初回の感染で生じた症状です」

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

Aさん(32歳、初産婦)。妊娠36週0日、胎児機能不全のため緊急帝王切開を受け、男児を出産した。児は出生時、自発呼吸・体動を認めず、生後30秒で心拍数が30/分のためバッグ・マスク換気を開始し、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)モニターを装着した。その後のモニター値と児の状態を以下に示す。

生後時間	心拍数	SpO <sub>2</sub>	呼吸	児の状態
1分	40/分	50%	なし	体動なし
1分30秒	100/分	60%	あえぎ呼吸	四肢はだらんとしている
2分	120/分	80%	あえぎ呼吸	四肢はだらんとしている
2分30秒	140/分	95%	自発呼吸あり	弱く啼泣、筋緊張あり
3分	160/分	95%	自発呼吸あり	強く啼泣、筋緊張あり

45 バッグ・マスク換気の中止を検討すべきなのはいつか。

1. 生後1分
2. 生後1分30秒
3. 生後2分
4. 生後2分30秒
5. 生後3分

46 児は蘇生終了後、NICU へ入院し、保育器に収容され、経鼻胃管が挿入され、輸液が開始された。生後、低血糖は認めず、胃内容物は透明であった。生後 12 時間、呼吸数 55/分、心拍数 180/分、血圧 62/45 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉98 % (room air)。覚醒した状態が続いており、少しの刺激で啼泣し、不穏である。

児に認められる神経症状で最も可能性が高いのはどれか。

1. 筋緊張低下
2. 吸啜反射の減弱
3. 伸展反射の減弱
4. Moro〈モロー〉反射の減弱

47 生後 24 時間、児の全身状態は改善傾向である。初回授乳前に経鼻胃管より血性の内容物が吸引された。吸引物は Apt〈アプト〉試験で新生児血液と診断された。

児への初期処置として最も適切なのはどれか。

1. 経管栄養の開始
2. 新鮮凍結血漿の投与
3. 上部消化管内視鏡検査
4. ビタミン K<sub>2</sub> 製剤の静脈内注射

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、初産婦)。既往歴や生活歴に特記すべき事なく、妊娠経過中、母子ともに異常の指摘はなかった。妊娠 39 週 1 日、頭位経膈分娩で男児を出生した。児の Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 8 点、5 分後 9 点、初期蘇生は行わずルーチンケアのみ行って終了したが蘇生の際の診察で左の口唇裂を認めた。出生体重 2,950 g。生後 10 分の児のバイタルサインは、体温 37.2℃、呼吸数 50/分、心拍数 160/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉92%(room air)であった。

48 A さんは以前より早期母子接触を希望していた。

早期母子接触前の児への対応として適切なのはどれか。

1. 経鼻胃管の挿入
2. 酸素投与の開始
3. 閉鎖式保育器への収容
4. 胸部エックス線写真の撮影
5. 経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO<sub>2</sub>〉モニターの継続

49 生後 4 か月 0 日、約 1 か月前に手術を受け、児は元気に自宅で生活している。A さんは児の発育発達の経過観察を目的に児を連れて外来を受診した。来院時の身体計測値は身長 60.0 cm、体重 5,400 g、頭囲 42.5 cm であった。あやすと声を出して笑い、人見知りをする様子はない。定頸はしているが寝返りはまだである。また、おもちゃを目の前に出しても手を伸ばすことができない。

現時点での児の評価で適切なのはどれか。

1. 運動発達遅滞
2. 精神発達遅滞
3. 体重増加不良
4. 発育発達順調

50 今回の外来受診の最後に A さんから「子どもの手術の都合もあって、まだ予防接種を何も受けることができていません」と相談があったため、1 週後に初回予防接種の実施を検討した。周囲では感染症流行の情報はない。

初回予防接種として適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 水痘ワクチン
2. 肺炎球菌ワクチン
3. おたふくかぜワクチン
4. 四種混合〈DPT-IPV〉ワクチン
5. 麻しん風しん混合〈MR〉ワクチン

次の文を読み 51～53 の問いに答えよ。

A さん(22 歳、初産婦、外国籍)。妊娠 10 週。夫(30 歳、外国籍、会社員)と 2 人暮らし。1 年前に夫の仕事のため来日した。母子健康手帳の受け取りのため、夫婦で B 市の保健センターに来所した。

51 A さんへの支援にあたっての情報収集で最も優先されるのはどれか。

1. A さんの母国の母子保健サービス
2. A さん夫婦の日本語能力
3. 在留資格の有無
4. 夫の仕事の状況

52 保健センターの助産師は、子育て世代包括支援センター業務ガイドラインの考え方を参考に、A さんの支援プランを検討することとなった。A さんは、母国ではなく日本で出産する予定である。

支援プランの検討で適切なのはどれか。

1. 出産予定の病院の助産師と連携して作成する。
2. 日本の産育習俗に基づき計画する。
3. A さんの意見は最後に確認する。
4. 初回の評価は出産後に行う。

53 Aさんは妊娠34週に、産後の生活や育児の相談のため、夫と共に保健センターに来所した。助産師に、異国での初めての育児に不安があると話した。育児は夫婦2人で行うこと、産後のサポートが不足していることがわかった。

Aさんに説明する母子保健サービスで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 新生児・褥婦訪問指導
2. 乳幼児健康診査
3. 一時預かり事業
4. 産後ケア事業
5. 入院助産

次の文を読み 54、55 の問いに答えよ。

A さん(39 歳、初産婦)。身長 154 cm、体重 60 kg(非妊時 50 kg)。体外受精で妊娠し、妊娠経過は順調であった。妊娠 40 週 3 日、規則的な子宮収縮がありパートナーと一緒に午前 11 時に来院した。入院時の所見は、体温 37.0℃、脈拍 84/分、血圧 110/74 mmHg。頭位、第 2 胎向、児の推定体重 2,760 g であった。内診所見は子宮口開大 2 cm、展退度 60 %、Station -1 であった。A さんの入院後の陣痛間欠時間と陣痛持続時間は表のとおりである。

	午前 11 時	午後 1 時	午後 3 時	午後 5 時	午後 7 時
陣痛間欠時間(分)	15	12	10	8	6
陣痛持続時間(秒)	20	30	30	40	40

54 分娩開始と考えられる時刻はどれか。

1. 午前 11 時
2. 午後 1 時
3. 午後 3 時
4. 午後 5 時
5. 午後 7 時

55 陣痛発来から 11 時間経過した。体温 37.3℃、脈拍 88/分、血圧 118/76 mmHg。陣痛間欠時間 3 分、陣痛持続時間 50 秒。胎児心拍数基線 140 bpm、胎児心拍数基線細変動中等度、胎動時に心拍が 20 bpm 増加し 30 秒後基線に戻る波形があり、徐脈はない。内診所見は子宮口開大 5 cm、展退度 80 %、Station ±0、恥骨後面 1/2 触知可、小泉門は 11 時方向に触れる。A さんは「入院してから随分時間が経ちますが、まだお産にならないですか。赤ちゃんは大丈夫ですか」と不安気な表情で話す。

このときの助産診断で正しいのはどれか。

1. 遷延分娩である。
2. 第一胎向である。
3. reassuring fetal status である。
4. 児頭の最大周囲径は骨盤潤部である。





